

NEWS 港湾ニュース

■「第 20 回室蘭さかなの港町同窓会」の開催

室蘭市経済部農水産課 主幹 相原清一

1. はじめに

まず、「室蘭さかなの港町同窓会」を実施した経緯をご説明したいと思います。

本イベントが初めて開催された平成 7 年当時は、道内他地域と同様に、昭和 50 年代の 200 海里体制等に伴う沖合漁業の情勢変化や、沿岸周辺水域の資源の悪化など、非常に厳しい環境にありました。

一方で、室蘭のマチ自体も、40 年代後半からのオイルショックや工業都市室蘭を支えてきた重厚長大型企業の不況や経営合理化が進められ、人口流出が続いたことから、マチの活性化が盛んに叫ばれた時代でした。

こうした中で、本市では平成 5 年に、「追直漁港地域整備構想」、通称：M ランド構想を策定することとなりました。

当時、本市の養殖漁業については、ホタテ稚貝・成貝の生産が、室蘭港内の漁港区で盛んに行われておりましたが、狭隘な作業環境の改善や、衛生管理の向上が求められていたこと、また、北海道の水産業も将来的に獲る漁業から育てる漁業へシフトしていくことが予想され、追直漁港を「つくり育てる漁業」の支援基地にしていくことを 1 つ目のテーマとしました。

さらに、追直漁港の地理的な特性として、本市の中心市街地と隣接していることから、漁港からのマチづ

くり、マチおこしという新たなアプローチを思考し、市民に親しまれる、「ふれあい漁港」を目指していくことを 2 つ目のテーマに構想を策定し、後に国の漁港整備計画にも反映され、平成 8 年度からは本構想の中核プロジェクトである沖合人工島（M ランド）の整備がはじまりました。

同時に、ソフト事業として、本市水産業への市民理解や魚食普及を行っていくこととなり、当時実施されていた「全国さかなの港町同窓会」を誘致し、組織的にも室蘭漁協のみならず、市場関係者、地元商店街、さらには、商工会議所、観光協会も巻き込んで組織され、マチ全体のイベントとして位置付けられ M ランドの着工前年の平成 7 年 10 月に「第 1 回室蘭さかなの港町同窓会」が盛大に開催されました。

当初は、単年度限りとして開催されましたが、市民の方々の継続を希望する多くの声と、室蘭漁協をはじめとする実行委員会の熱意によって、毎年の継続開催となり、気が付けば今年で 20 回を迎え、今ではマチを代表するイベントに成長しました。

2. 20 回目を迎えた「室蘭さかなの港町同窓会」

今年は、「ふれあい漁港」の象徴ともいべき M ランドが着工から 17 年の歳月をかけて完成、供用開始となり、同時に「室蘭さかなの港町同窓会」も 20 回





の節目を迎えるため、新たにMランド完成記念イベント実行委員会を前年に立ち上げて準備を進めてまいりました。

4月24日にMランドの供用式典の開催を皮切りに、7月13日からの一般開放初日には、ふれあい漁港まつりを開催し、多くの方々に参加して頂きました。

10月13日、Mランド完成記念イベントの大トリと位置付けて「室蘭さかなの港町同窓会」を開催しました。

主なイベント内容として、

- ・毎年好評を得ている「サケの棒引き・つかみどり」
- ・海と山の幸や地元加工品を集めたふれあい朝市
- ・室蘭漁協女性部による「千人鍋」
- ・ステージイベントとして「よさこいソーラン in 追直」、「模擬セリ」
- ・Mランドをはじめとする漁港施設を探索し、魚や漁業を知ってもらう「謎解きゲーム」と抽選会
- ・室蘭開発建設部のパネル展
- ・道総研栽培水産試験場の一般公開
- ・北大臨海実験所の海藻しおり作りなど、秋の一日を家族で楽しんでもらえるイベントを実施しました。

イベント当日は、とても風が強く、いくつかのイベントが中止となってしまいましたが、来場された皆さま

は十分に楽しんでもらえたようでした。

「室蘭さかなの港町同窓会」の特徴は、生産者・市場関係者・地元商店街が一堂に介して年に一度、秋サケを中心とした地域の旬な味覚を提供するマチぐるみの物産イベントで、リピート率が非常に高いイベントです。一方で、天候が不安定な10月に開催するため、出展業者にとっては非常にリスクなイベントでもあります。これまで、20回も継続してこれたのは、全ての関係者が「年に一度だけでも、市民に地元でとれた食材を味わってもらいたい、楽しんでもらいたい」という気持ちがあったからだと思います。

「さかなの港町同窓会」を楽しみにしている方々がいる限り、きっと30回、40回と続いていくものと信じております。

3. 終わりに

余談ですが、実は第1回目の時にマチ興しグループの一員として会場設営を手伝っておりました。また当時、Mランド構想についてもパース図を見て、「どえらい物が出来るんだ」と感じておりました。20年後に農水産担当者として携わっている自分を考えると、とても感慨深いものがあります。

最後に、これからも「さかなの港町同窓会」を通して、「つくり育てる漁業」への理解と「ふれあい漁港」が体現していくことを願うとともに、Mランドの建設と供用、そして完成記念イベントに携わった多くの関係者の皆様に紙面を借りて感謝申し上げます。

